授業改善のイメージ（ 美術科 ）

本年度の研究テーマ　見通しと振り返りの往還による授業改善
～「思考力・判断力・表現力等」の評価方法の充実～

授業改善を行う領域・内容

鑑賞活動における「思考力・判断力・表現力等」の評価方法の充実

設定理由

１年生では対象物をよく観察する力，２年生では自らの思いを表現する力，３年次では生活に活かし表現する力に重きをおいている。それぞれの力が繋がっていることに意識をもたせながら学習を進め，自分の思いをスムーズに色や形（表現活動）や言葉（言語活動や鑑賞活動）で多面的・多角的に表現できる力をつけさせたいと考えている。学習者の様子を観察すると，①自分の思いもあり，どのように表現したいのか見通しを持つことができる生徒と，②自分が表現したいことはあるものの，どのような形で表現したらよいのか分からない生徒と，③表現したいことが思いつかない生徒とがいる。②～③の生徒のつまずきを減らし，より豊かな表現活動・鑑賞活動につなげることができるよう改善していく必要がある。

作品などを対象にした鑑賞については，「思考力，判断力，表現力等」の育成の観点から，「Ａ表現」との関連を図り，発想や構想と鑑賞の学習の双方に働く中心となる考えを軸としながら相互に関連させて育成することが重視されている。また，鑑賞と表現を，相互の関連を図りながら指導していくことも重要である。それぞれが独立した題材で直接，内容の関連が図れない場合においても，鑑賞の学習が作品の定まった価値を学ぶだけの表面的な学習にならないためには，鑑賞の学習の中で作者の気持ちになって発想や構想を膨らませるような視点や，制作手順をたどりながら表現方法に着目させるような視点を位置付けることが大切である。

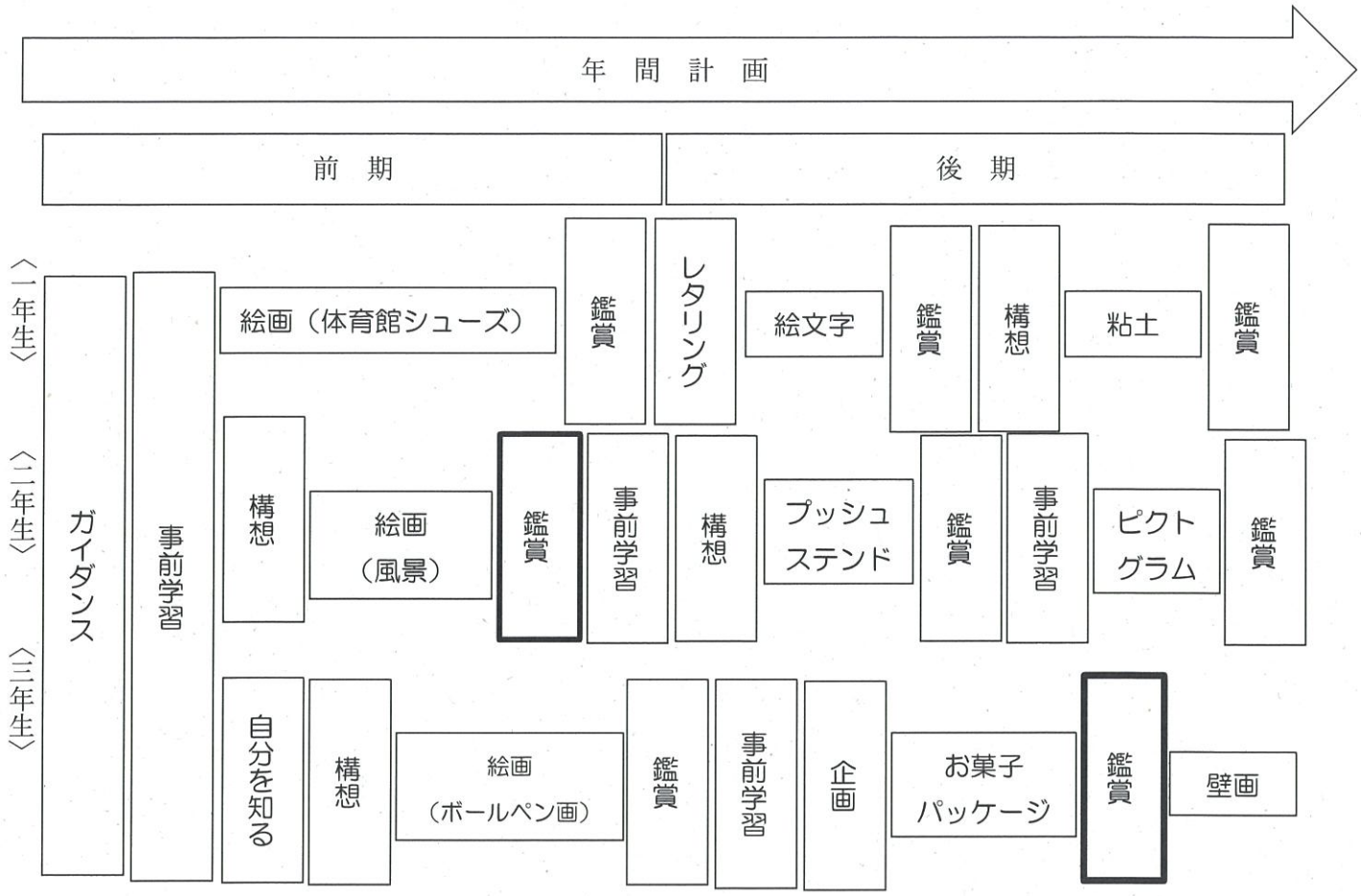
授業改善の方針

今回は，表現活動ではなく，鑑賞活動においての研究としたい。

（１）題材の工夫
　学習者自身の興味をそそる題材の設定と工夫。

（２）「思考力・判断力・表現力等」の力をつけるための授業展開とワークシートの工夫
　鑑賞活動の授業内では，言葉かけの改善や生徒自身の発言を広げていけるよう工夫をする。
また，既習事項にも連動したり，ICT 機器を活用したりしながら，思考を深めることのできる題材の設定に努める。

（３）根拠や理由から豊かな発想に繋げられる評価基準の設定
　鑑賞した作品から色や形で目に見えたり，感じたりできることだけでなく，「なぜそう感じたか」「どこをみてそう考えたのか」などの根拠をもとに思考・判断・表現できているのかの評価基準を設定する。



前期の成果

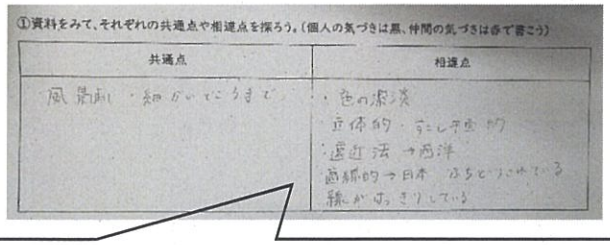
（1）　前期は２年生を対象に，日本と西洋の絵画作品の比較鑑賞を通して，対話型鑑賞に取り組んだ。親しみのある日本文化や日本美術の歴史を交えながら，西洋文化や西洋美術とのつながりを学習していく。この学習では，学習者自身は興味深く積極的に学習することができていた。また，ICT 機器の特性を生かして，作品の全体の様子だけでなく，細かな部分までくまなく観察し，鑑賞活動につなげることができた学習者も多く，興味をひくことができる題材の設定と工夫は成果があったと考える。

（2）　これまで美術で学習した既習事項や他教科で学習した内容をも知識として取り入れ，鑑賞活動に活用する学習者が多くみられ，見方や感じ方を広げることができたと考える。教師による声掛けでは，各グループでの鑑賞活動での発言を聞きとったり，教師が問い返したりすることでその発言内容の意図について思考を広げることができた。

（3）　（1）にもあったように，学習者はICT 機器の特性を生かして作品画像の細かな部分まで拡大しながら観察するなど，鑑賞作品の全体や詳細に注目し，色や形をもとに様々な事象を発見することができた。そのため，作品の色や形，構図，線などの性質やそれらが感情にもたらす効果，造形的な特徴などをもとに全体の印象や作風で捉えて，西洋絵画にどのように生かされているのか，考えることができたと考える。

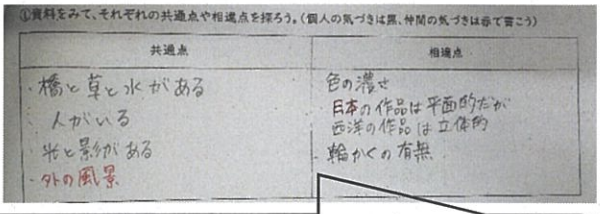
・以下学習者ワークシート…

【それぞれの共通点・相違点について生徒の学習プリントより】


①資料をみて、それぞれの共通点や相違点を探ろう。（個人の気づきは黒、仲間の気づきは赤で書こう）

共通点	相違点
風景画・細かいところまで	・色の濃淡 立体的・すこし平面的 遠近法→西洋 感覚的→日本　ふちどっている 線がはっきりしている

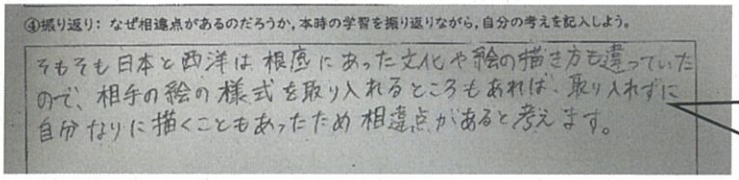
・【既習事項】の遠近法について触れることができている。
・線の違いについて気づくことができている。


①資料をみて、それぞれの共通点や相違点を探ろう。（個人の気づきは黒、仲間の気づきは赤で書こう）

共通点	相違点
・橋と草と水がある 人がいる 光と影がある ・外の風景	色の濃さ 日本の作品は平面的だが 西洋の作品は立体的 ・輪かくの有無

・色や創造的な工夫（平面的・立体的）に気付くことができている。

【振り返りについて生徒の学習プリントより】


④振り返り：なぜ相違点があるのだろうか，本時の学習を振り返りながら，自分の考えを記入しよう。

そもそも日本と西洋は根底にあった文化や絵の描き方も違っていたので、相手の絵の様式を取り入れるところもあれば、取り入れずに自分なりに描くこともあったため相違点があると考えます。

・各国の文化の違いに気づき、自分の考えを記述できている。

前期の課題

（1）　将来，多くの学習者が表現することよりも鑑賞する機会の方が多くなる。そのため，学習者が将来作品鑑賞をする際に，自らの思いや考えを他者に向けて積極的に発信することを通して，主体的に楽しむことができることができるように，今後も対話型鑑賞の研究を行っていきたい。

（2）　今回の授業内容では，一部の学習者では目でみえる共通点・相違点を見つけることはできるが，「なぜ，そのように考えたのか。」「どこをみてそのように考えたのか。」という，根拠となる部分を深く考えることが難しい学習者もいた。学習者の「思考力・判断力・表現力」は教師の言葉かけの改善と授業展開，ワークシートの工夫ひとつで大きく変化するため，そのための研究は継続していく必要がある。

（3）　今回の題材では，色や形に注目しながら「何色をしている」「どんな形をしている」という，目に見えるものの色や形のみにとらわれている学習者が一部いた。「自分はこう感じた。なぜなら色や形が…だから。」という，なぜそう考えたのかという，その先の根拠や理由の部分まで辿り着くことができるよう，さらに研究が必要だと感じた。

後期の成果

（1）　後期は，３年生を対象に「心でみて・触って・感じて・伝え合おう」という対話を重視させた触れる立体作品の鑑賞を行った。学習者が実際に五感を使って立体作品を鑑賞することと，実際に作者や学芸員の方との交流をすることで，　学習者自身の興味を持たせる題材の設定の工夫となったと考える。

（2）　これまで経験したことのない題材での貴重な鑑賞活動で，立体作品の造形的なよさや美しさを感じとり，作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして，学習者なりの見方や考え方を深めていくことができた授業展開とワークシートであったと考える。また，ICT 機器を使っての作品制作の方法や材料，作品解説などから，より様々な見方や感じ方ができ，学習者の「思考力，判断力，表現力等」につなげる授業展開となった。

（3）　今回の学習内容では学習者自身が作品を鑑賞して「見つけたこと」「気がついたこと」「考えたこと」から「疑問に思ったこと」へと思考を巡らせられるものとなった。それを踏まえて，振り返りでは「なぜそう感じたか」「どこをみてそう考えたのか」などの根拠をもとに思考・判断・表現できている学習者が多く感じた。

後期の課題

（1）　前期同様，鑑賞活動を意欲的に楽しむことを通して，自らの思いや考えを他者に向けて積極的に発信できるように，今後も対話型鑑賞の研究を行っていきたい。また，実際の作品や作家・学芸員の方を巻き込んでの五感を活用した実践型の対話型鑑賞を研究していきたいと考える。

（2）　後期の研究では，五感を活用しての対話型鑑賞であった。とくに，視覚を遮っての鑑賞活動では，触覚からの情報が全てとなるため，形の変化や質感などをより敏感に感じ取る鑑賞活動となる。学習者はより入念に作品の細部まで観察するなど，丁寧な鑑賞活動となっていた。そのため，その後のグループ活動でも意欲的に学習者同士の交流ができていたため，継続して研究していきたい。

（3）　今回の研究では，学習者の興味をそそる題材の設定，授業展開やワークシートの工夫も思考・判断・表現を張り巡らせることのできる研究内容であった。また，評価の場面でも視界を遮ることで五感から実際に感じられたことから，疑問や思考・判断・表現につなげられることができていた。しかし，はっきりと

A・Bの判断までは難しいものとなった。

来年度に向けて

今年度は，実験的に平面作品と立体作品の鑑賞活動の研究を行なった。平面作品の鑑賞はモニターやICT機器を活用しての鑑賞活動であったため，機会があれば各美術館や博物館にご協力いただき，実際の平面作品を活用しての鑑賞活動ができれば、と考えている。実際の作品を鑑賞することで，対話型鑑賞教育の実践を目指したい。

作成者：安部　瞳（あべ　ひとみ）

単元プランシート（美術科2年）

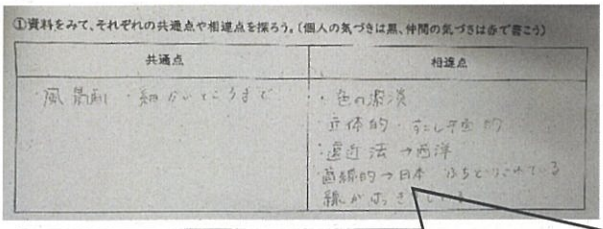
実施時期 6～7 月

題材名		鑑賞 日本と西洋の関係を考えよう
題材の目標		比較鑑賞を通して，浮世絵のどんなところが西洋に衝撃を与えたのか，なぜジャポニズムが起こったのか考え，話し合ったり発表したりしながら見方や感じ方を深めることができるようにする。
評価規準	知・技	浮世絵の構図や色彩，線などの性質やそれらが感情にもたらす効果，造形的な特徴などを基に全体の印象や作風で捉えて，西洋絵画にどのように生かされているのかを理解している。
	思・判・表	浮世絵の造形的なよさや美しさを感じ取り，作品の意図や創造的な工夫などについて考えたり同時代の西洋絵画との相違点などに気付いたりして，美術を通じた国際理解について考えるなどして，美術文化に対する見方や感じ方を深めている。
	主体	美術の創造的活動の喜びを味わい主体的に浮世絵が西洋に影響を与えた理由を探るなどの鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

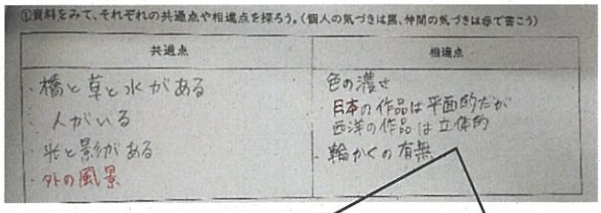
時間	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1	比較鑑賞を通して，浮世絵のどんなところが西洋に衝撃を与えたのか，なぜジャポニズムが起こったのか考え，話し合ったり発表したりしながら見方や感じ方を深めることができるようにする。	① 知	① 鑑	① 態鑑

評価基準（思考・判断・表現に②について）	
B	A
浮世絵の造形的なよさや美しさを一つ感じ取り，創造的な工夫などについて考えたり同時代の西洋絵画との共通点や相違点などに気付くことができる。	浮世絵の造形的なよさや美しさを三つ感じ取り，創造的な工夫などについて考えたり同時代の西洋絵画との共通点や相違点などに気付いたりして，見方や感じ方を深めている。

【それぞれの共通点・相違点について生徒の学習プリントより】

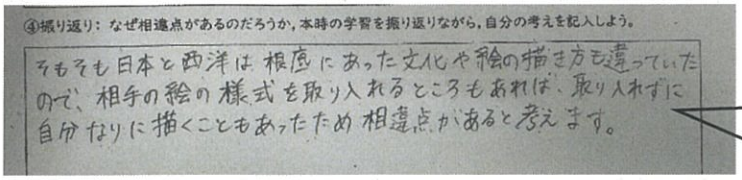


・【既習事項】の遠近法について触れることができている。



・色や創造的な工夫（平面的・立体的）に気付くことができている。

【振り返りについて生徒の学習プリントより】



・各国の文化の違いに気づき、自分の考えを記述できている。

様式1 指導案鑑

大分大学教育学部附属中学校

美術科学習指導案

令和6年6月28日(金)第5校時
2年D組 40名
指導者 安部 瞳

1 題材名　鑑賞 日本と西洋の関係を考えよう

2 題材設定の理由

(1)教材について

・本題材は,浮世絵と西洋画との比較鑑賞を通して,日本美術が西洋美術にどのような影響を与えたのか,また,逆に西洋美術が日本美術にどのような影響を与えたのか,鑑賞しながら見方や感じ方を深めていく題材である。[共通事項]に示された造形的な視点を豊かにするための「知識」を活用して,日本の美術作品の表現の特質などから,伝統や文化のよさや美しさを感じ取るとともに,西洋の美術作品と比較し,諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き,美術文化について考えるなどして,見方や感じ方を深めていくものである。

・また,学習指導要領では B 鑑賞 イ(イ)日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから,伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに,諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き,美術を通した国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして,見方や感じ方を深めること。とある。比較鑑賞することを通して両国の伝統と文化に触れ,見方や感じ方を深めることで,学習者自身が日本の伝統と文化に誇りを持つことができると考える。また,小集団や学級で意見交流を行うことで,相互理解につなげることもできると考える。

・本学年は昨年の鑑賞授業の中で,ボッティチェリ作『春』を学習し,絵画作品を造形的な視点で捉え,細部や全体のイメージなど捉え,主題に迫るなど,造形的な見方や感じ方を広げる学習に取り組んでいる。また,本時までの学習のなかで,『遠近法』を学習しているため,本題材の鑑賞活動を通して,浮世絵の造形的なよさに触れ,美しさを感じ取り,創造的な工夫などについて考えたり同時代の西洋絵画との相違点などに気付いたりして,見方や感じ方を深めることに適した題材であると考える。

(2)生徒について

・本時の学習を通して,日本特有の伝統や文化のよさや美しさをより身近に感じ取り,諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付かせ,自国の美術文化への愛情を深めるきっかけとなる学習としたいと考えている。

・本学級の学習者は,明るく前向きで,授業にも意欲的に参加することができる。また,制作活動では透視図法を取り入れ,作品に奥行や広がりを表現するなど,既習事項を作品に積極的に取り入れ,制作意図に応じて学習者の表現方法を追求し,創造的に表現することができる。

・その一方で,日本美術の鑑賞機会が少なく,少し抵抗感があるように感じた。その理由はアンケートで,「西洋の絵画作品と日本の絵画作品と,どちらが好きですか。」という質問に対して,52.5%の生徒が西洋の絵画作品の方が好きだと答えた。また,その理由を聞くと,西洋の絵画作品の方が美術館で鑑賞する機会が多く,描かれているものがより写実的なものに近く立体感を感じること。また,西洋の絵画作品の方が色彩豊かで制作意図も想像しやすいということがあげられたからである。

(3)指導について

・まずは,ゴッホの『日本趣味・雨の大橋』を見て,作者を予想させることで,意外性を持たせ,本時の学習への課題意識を持たせることができると考えられる。次に,浮世絵を見て,代表的な絵師と作品を紹介し,浮世絵の当時の役割や西洋に広がったきっかけなどを知る。

・つぎに,浮世絵と西洋画の資料を Chromebook で学習者に配布し,手元で拡大しじっくり観察しながらそれぞれを比較し,構図や色彩,線などの性質やそれらが感情にもたらす効果,造形的な特徴などを視点に,

相違点や共通点に気付かせ，グループ内で「日本美術は西洋美術にどのような影響を与えたのか」を根拠をもって話し合い，自分たちなりに解釈していき，学級全体で意見交流を行う。Chromebook を活用することで構図や色彩，線に気づきやすく，グループ活動も活発に行え，見方や感じ方を深めることができると考える。

・最後に，振り返りとして相違点に触れ，「なぜ相違点があったのか。」について想像させ，より考えを深める振り返りとしたい。また，ルイ・ヴィトンの「ダミエ」や「モノグラム」の模様も紹介し，ジャポニズムが現代にも影響を与えていることを知る。そうすることで，日本絵画と西洋絵画の関係が身近なものであることに気付かせることができると考える。

3 題材の目標および評価規準

・浮世絵の構図や色彩，線などの性質やそれらが感情にもたらす効果，造形的な特徴などを基に全体の印象で捉えて，西洋絵画にどのように生かされているかを理解できるようにする。
（知識及び技能）

・浮世絵の造形的なよさや美しさを感じ取り，創造的な工夫などについて考えたり同時代の西洋絵画との相違点などに気付いたりして，美術を通した国際理解について考えるなどして，見方や感じ方を深められるようにする。
（思考、判断、表現力等）

・美術の創造的活動の喜びを味わい主体的に浮世絵が西洋に影響を与えた理由を探るなどの鑑賞の学習活動に取り組もうとする。
（学びに向かう力）

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
知 浮世絵の構図や色彩，線などの性質やそれらが感情にもたらす効果，造形的な特徴などを基に全体の印象や作風で捉えて，西洋絵画にどのように生かされているのかを理解している。	鑑 浮世絵の造形的なよさや美しさを感じ取り，作品の意図や創造的な工夫などについて考えたり同時代の西洋絵画との相違点などに気付いたりして，美術を通じた国際理解について考えるなどして，美術文化に対する見方や感じ方を深めている。	態鑑 美術の創造的活動の喜びを味わい主体的に浮世絵が西洋に影響を与えた理由を探るなどの鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

様式2 指導と評価の題材計画

時	主な学習活動・ねらい	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	評価方法
		知識	技能	発想や構想	鑑賞		
本時	○比較鑑賞を通して，浮世絵のどんなところが西洋に衝撃を与えたのか，なぜジャポニズムが起こったのか考え，話し合ったり発表したりしながら見方や感じ方を深めることができるようにする。	① 知			① 鑑	① 態鑑	ワークシート 行動分析

❶…形成的評価。記録に残さず、学習者の達成度を確認し、授業や単元計画の調整を行うための評価。
①…総括的評価。記録に残し、成績に反映させる評価。

【努力を要する状況（C）に対する手立て】
・ワークシートの記入が進んでいない（相違点と共通点を見つけることができない，それぞれの特徴を見つけるだけになっている）生徒には，構図や色彩，線など，造形的な違いについて具体例をひとつ指示してアドバイスを行う。

様式3 本時の指導

(1)本時の位置づけ(1 ／ 1)

(2)題材名　鑑賞 日本と西洋の関係を考えよう

(3)本時のねらい

比較鑑賞を通して,日本美術のどんなところが西洋に衝撃を与えたのか,なぜジャポニズムが起こったのか考え,話し合ったり発表したりしながら見方や感じ方を深めることができるようにする。

(4)展開

時間	学習活動	学習内容及び指導上の留意点()	評 価
10	1.ゴッホ『日本趣味・雨の大橋』を見て,作者を予想する。	○クイズ形式で様々な意見を聞きだす。	
	2.ゴッホについて簡単な解説を聞き,理解する。	○ゴッホの資料を見せ,簡単に解説をする。	
	3.浮世絵を見て,当時の役割や,西洋に広がったきっかけやジャポニズムについて知る。	○代表的な絵師と作品の紹介をする。 ○浮世絵が,歌舞伎役者や相撲力士の写真代わりに使われていたことや,輸出品の緩衝材として使用されていたこと,パリ万博をきっかけに日本美術が西洋に広がり,多くの美術家にも影響を与えたことを教える。	
	浮世絵と西洋絵画を比較し,見方や考え方を深めよう。		
5	5.グループで浮世絵と西洋絵画を比較して相違点や共通点をワークシートに書きだす(そう考える理由も記入する)。	○浮世絵と西洋絵画の資料をクラスルームに配布し,それぞれの構図や色彩,線に着目させて相違点や共通点を書かせる。 ○ワークシートには,個人の気づきも書かせる ○資料を見て比較しながら話し合わせる。 ○いい話合いの様子を全体に拡散するように紹介する。	【ワークシート】 【机間指導】
5	6.なぜこのような共通点があるのか考え,自分なりの解釈を個人のワークシートに記入する。	○浮世絵と西洋絵画を比較して,造形的な特徴やそれぞれの相違点を通して気付いたことや考えたことを記入させる。 ○数名に意見発表をさせる。	
15	7.グループで日本美術が西洋美術にどのような影響を与えたのかを,話し合い自分たちなりに解釈してみる。	○資料をみて,造形的な特徴やそれぞれの共通点や相違点に着目させながら,どのような影響を与えたのか考える。	
10	7.グループで導き出した解釈を発表する。	○造形的な視点で考えられていたり,影響を与えたポイントに気付くことができている解釈はリピートして紹介しながら進行する。	
5	8.振り返りを記入す	○本時振り返りとしてなぜ相違点があるのか,自分	【ワークシート】

	る。	の考えを記入する。 〈例〉それぞれの国の考え方や文化の違い，環境の違いによって「美しい」と感じる色や形，構図に差が生じるから。	
2	9.学級全体で振り返りを行う。		

(5)「思考・判断・表現」の評価基準

B	A
浮世絵の造形的なよさや美しさを一つ感じ取り，創造的な工夫などについて考えたり同時代の西洋絵画との共通点や相違点などに気付くことができる。	浮世絵の造形的なよさや美しさを三つ感じ取り，創造的な工夫などについて考えたり同時代の西洋絵画との共通点や相違点などに気付いたりして，見方や感じ方を深めている。

(6)学習記録計画

黒板

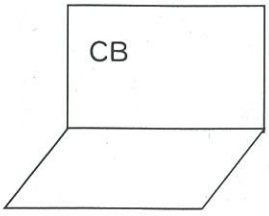
【鑑賞】『日本と西洋の関係を考えよう』

めあて　浮世絵と西洋絵画を比較し，見方や感じ方を深めよう。

★注目ポイント
構図や色彩，線

振り返り

TV
PowerPoint
浮世絵と西洋絵画の資料



鑑賞シート

日本と西洋の関係を考えよう

2年（　　）組（　　）番 なまえ（　　）

①資料をみて、それぞれの共通点や相違点を探ろう。（個人の気づきは黒、仲間の気づきは赤で書こう）

共通点	相違点

②なぜ①のような共通点があるのだろうか？

③日本美術は西洋美術にどのような影響を与えたのだろうか。根拠を持って自分たちなりに解釈をしよう。

④振り返り：なぜ相違点があるのだろうか，本時の学習を振り返りながら，自分の考えを記入しよう。

美術アンケート

2年（　　）組（　　）番　なまえ（　　）

授業に活用したいので、アンケートに協力してください。

① 絵画作品を鑑賞することは好きですか。

はい　・　いいえ

②西洋の絵画作品と日本の絵画作品のどちらを鑑賞する機会が多いですか。

西洋の絵画作品　・　日本の絵画作品

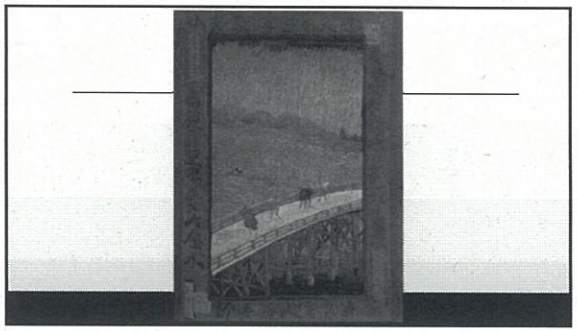
② -1　西洋の絵画作品と、日本の絵画作品と、どちらが好きですか。

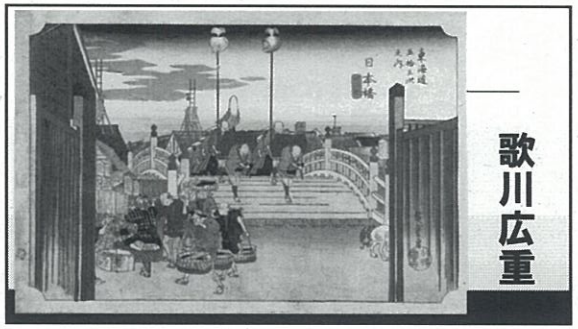
西洋の絵画作品　・　日本の絵画作品

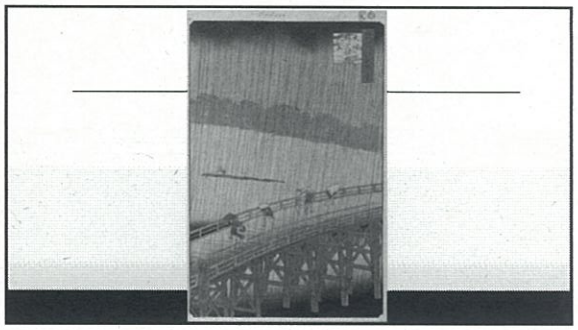
② -2　②-1の理由を詳しく教えてください。

③　それぞれの作品の印象を詳しく聞かせてください。

西洋の絵画作品	日本の絵画作品

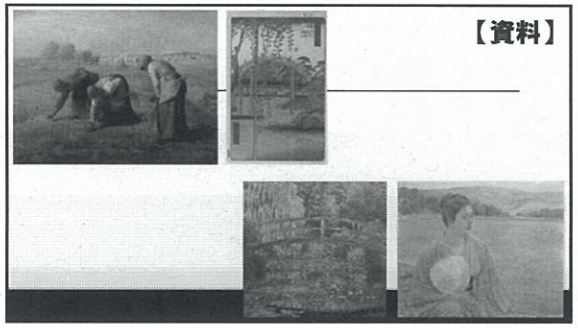




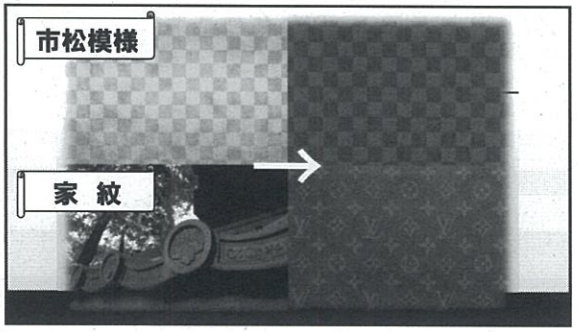


鑑賞

日本と西洋の関係を
考えよう



モノグラム
LOUIS VUITTON


市松模様
家 紋

様式1 指導案鑑

大分大学教育学部附属中学校

美術科学習指導案

令和7年2月14日(金),18日(火)第2~5校時
3年 39~40名
指導者 安部 瞳

1 題材名　鑑賞 心でみて・触って・感じて・伝え合おう
①彫刻作品を“さわる”“感じる”“伝え合う”鑑賞
②彫刻作品を自分なりの視点を持って“みる”“さわる”“感じる”鑑賞

2 題材設定の理由

(1)教材について

・本題材は,五感を使って立体作品を鑑賞し,実際に作者や学芸員の方との交流を通して,立体作品の造形的なよさや美しさを感じとり,作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして,自分なりの見方や考え方を深めていくものである。

・また,今回,実際に立体作品の実物を鑑賞することで,教科書では見ることのできない,作品の後ろの部分や構造などを直接手でふれて鑑賞する。視覚だけでなく,直接作品に触れることで自分の手を通して作品の触感やぬくもりを味わい立体表現の楽しさを感じさせ,その美しさや仕組みについて体験させることは学習者にとっても貴重な体験となると考える。

・現在県内外で活躍している大分大学の村上佑介氏の彫刻作品を直接鑑賞し触れながら村上氏とコミュニケーションをとったり,大分県出身の彫刻家朝倉文夫氏の作品を間近で鑑賞し,朝倉文夫記念館の佐藤氏から作品について学んだりすることで,より一層作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などに迫り,見方や感じ方を深めることができるため,中学校3年生に適していると考える。

(2)生徒について

・本学年の学習者は,落ち着いた学習態度で,授業やグループ活動にも積極的に参加することができる。また,制作活動では,自身の作品をよりよいものにしていくために,時間をかけて細部にまでこだわって制作することができる。

・一方,鑑賞活動においては,グループ活動では自信をもって自分の意見を発表することができるが,学級全体では,自分の意見に自信が持てず,なかなか意見発表ができないことが課題である。学習者は,比較的楽しく表現活動には取り組めているものの,鑑賞活動において作品に対して進んで興味をもち,より深くその素晴らしさを味わうことやイメージしたものや感じたこと,自分の考えを他者に向けて自信をもって表現することに苦手意識があるようである。

・これらは,表現・鑑賞に関わらず,授業内で自分の意見を表現する機会が少なく,授業を安心して受けることができる雰囲気づくりが不足していることが原因と考えられる。

(3)指導について

・そこで,まずは美術館などで立体作品を鑑賞する際,どんなところに注目してみているのか尋ね,生徒自体の作品に対する注目の仕方を理解し,その後の鑑賞活動へつなげられる活動とする。

・次に,村上氏・朝倉文夫記念館佐藤氏からの立体作品の触り方レクチャーを通して,触覚を通した鑑賞方法で多面的・多角的に作品を鑑賞していく。その際,学級ごとに視覚情報ありと視覚情報なしの2パターンの鑑賞を行い,両者の鑑賞方法や感覚についての違いについて観察する。

・直接作品を触っての鑑賞で各個人が感じたこと・見つけたこと・考えたことなどなんでもグループ内で意見交換を行う。その後,それぞれ村上先生や佐藤先生からの講義を聞いたり,質問をしたり,感想を共有したりすることで,作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考え,見方や考え方を深めていく。

・最後に,振り返りを通して,どのように考え方が変わったか,見方や考え方を深めることができたか考えさせ,より考えを深めることができると考える。

3 題材の目標および評価規準

・形や材料，質感などに着目して，作品の特徴を捉えることができるようにする。（知識及び技能）
・五感を使った立体作品の鑑賞を通して，立体作品から造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の表現の意図と工夫などについて考え，見方や考え方を深め，他者へ向けて表現することができるようにする。（思考、判断、表現力等）
・作品から受けた印象を具体的に表現したり，仲間の意見を聞いたり鑑賞する力を高めることができるようにする。（学びに向かう力）

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
知 形や材料，質感などに着目して，作品の特徴を捉えることができる。	鑑 対話を重視させた鑑賞活動を通して，立体作品から造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の表現の意図と工夫などについて考え，見方や感じ方を深め，他者へ向けて表現することができる。	態鑑 作品から受けた印象を具体的に表現したり，仲間の意見を聞いたり鑑賞する力を高めることができる。

様式2 指導と評価の題材計画

時	主な学習活動・ねらい	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	評価方法
		知識	技能	発想や構想	鑑賞		
本時	○対話を重視させた鑑賞活動で立体作品を鑑賞し，実際に作家とコミュニケーションをとったり，作品に触れたりする活動を通して，立体作品の造形的なよさや美しさを感じとり，作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして，見方や感じ方を深めることができるようにする。	① 知			① 鑑	① 態鑑	ワークシート 行動分析

❶…形成的評価。記録に残さず、学習者の達成度を確認し、授業や単元計画の調整を行うための評価。
①…総括的評価。記録に残し、成績に反映させる評価。

【努力を要する状況（C）に対する手立て】
・適宜机間支援を行い，声かけをしながら学習者の意見を鑑賞シートに引き出す。

単元プランシート（美術科３年）

実施時期 ２月

題材名		鑑賞 心でみて・触って・感じて・伝え合おう
題材の目標		対話を重視させた鑑賞活動で立体作品を鑑賞し，実際に作家とコミュニケーションをとったり，作品に触れたりする活動を通して，立体作品の造形的なよさや美しさを感じとり，作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして，見方や感じ方を深めることができるようにする。
評価規準	知・技	形や材料，質感などに着目して，作品の特徴を捉えることができるようにする。
	思・判・表	五感を使った立体作品の鑑賞を通して，立体作品から造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の表現の意図と工夫などについて考え，見方や考え方を深め，他者へ向けて表現することができるようにする。
	主体	作品から受けた印象を具体的に表現したり，仲間の意見を聞いたり鑑賞する力を高めることができるようにする。

時間	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
2	対話を重視させた鑑賞活動で立体作品を鑑賞し，実際に作家とコミュニケーションをとったり，作品に触れたりする活動を通して，立体作品の造形的なよさや美しさを感じとり，作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして，見方や感じ方を深めることができるようにする。	① 知	① 鑑	① 態鑑

評価基準（思考・判断・表現について）	
B	A
作品の特徴からワークシートに作品の造形的なよさに着目した根拠をもとに自分の意見を記入することができる。	作品の特徴からワークシートに作品の造形的なよさに着目した根拠をもとに自分の意見を記入することができ，作者の表現の意図と工夫などについて考え，見方や感じ方を深めることができる。

様式3 本時の指導

(1)本時の位置づけ(1 ／ 1)

(2)題材名　鑑賞 心でみて・触って・感じて・伝え合おう

(3)2/14(金) 18(火)本時のねらい

五感を使って立体作品を鑑賞し,実際に作家とコミュニケーションをとったり,作品に触れたりする活動を通して,立体作品の造形的なよさや美しさを感じとり,作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして,見方や感じ方を深めることができるようにする。

(4)展開

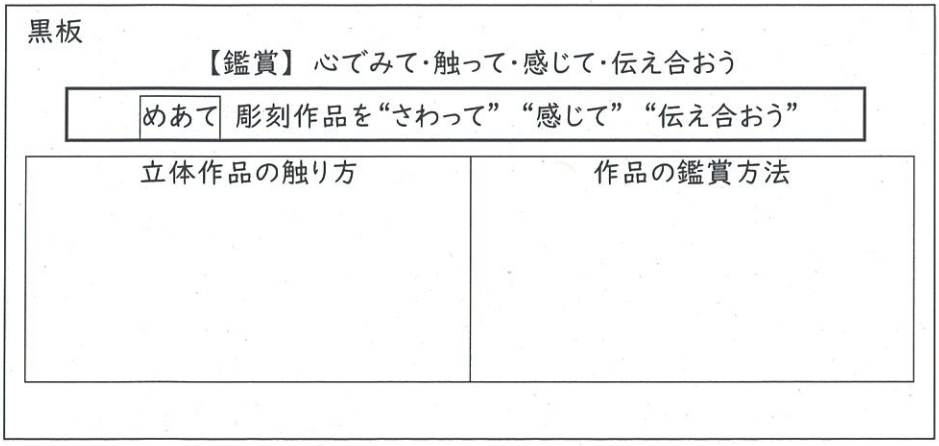
時間	学習活動	学習内容及び指導上の留意点()	評 価
10	1.本時の学習内容を確認する。	○美術館などで立体作品を鑑賞するとき,いつもどんなところに注目してみているのか尋ねる。 ○本時の学習内容を学習者に知らせる。 ・立体作品を鑑賞していくことを知らせる。 ・めあてを確認させる。	
	彫刻作品をさわって・感じて自分なりの見方や考え方で伝え合おう。		
		○作品のさわり方について(村上先生／佐藤さんによるレクチャー) ・作品のさわり方 ・さわることで気づく観点 ・手袋の配布(18日のみ) ○注意事項の確認 ・大切な作品であること,作品周辺での動き	
13	2.実際に村上先生・朝倉文夫氏の立体作品を鑑賞する。	○鑑賞の仕方の説明を行う。 ・目隠しをする人の動き ・目隠しの無い人の動き ・記録係は動画を撮る(いない場合はなし) ○村上先生・学生によるデモンストレショーン ○何を意図して触るのか確認。 ・形,触り心地,温度感(ぬくもり),質感 ○ペアになり,1体につき3分間の鑑賞を行う。 (実際に作品を触ったりしながら,様々な角度で鑑賞を行う。) これを4体分4~5回繰り返す。 ○机間支援を行い,適宜声かけをしていく。 意見が出づらい生徒には声かけをしながら思いを引き出させる。	※ペア学習。1人は目隠しあり、1人は目隠しなしの状態で行う。 ※2/18(火)は前回目隠しをしていない学習者が目隠しを行う。
10	3 班でそれぞれの意見を伝えあう。	○班の席に戻り,個人の意見をワークシートに記入する。(3分) ○お互いに感じたこと・考えたことを伝えあい,交流する。(5分) ○仲間の意見は色ペンでワークシートに記入する。 ○机間支援を行い,適宜声かけをしていく。 交流が手間どっている班には,質問をしながら話を広げられるよう支援する。 ○さまざまな発言を引き出し,受け入れ,広げ,何を言ってもよいということを確認させる。	【知・技】 形や材料,質感などに着目して,作品の特徴を捉えることができる。

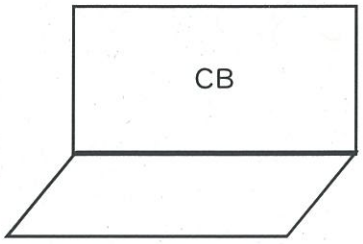
		①見つけたこと ②気がついたこと ③考えたこと ④疑問 など何でもいいので話してみよう!	
10	5 実際に作品をつくった村上先生や佐藤さんの講義を聞く。(質疑応答含む)	○実際に作品をつくった村上先生・佐藤先生の講義を聞き,作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考え,見方や考え方を深める。 テレビモニター　パンフレット等の資料 ・技法や材料について ・作品の説明 ・彫刻で表現する意義など	
7	6.ふりかえりを行う。 仲間の意見や村上先生の話を聞いて,どのように考えが深まったか,記入する。	○振り返りとして,Google フォームに回答する。 どのように考え方が変わったか,見方や考え方を深めることができたか,考えさせる。 ○机間支援を行う。 ○振り返りを数名に発表させる。 【例】作品を鑑賞するには,ただ見るだけでなく,材料や質感にまで意識をもち,作者がどんな思いを込めて制作したのか考えながら鑑賞するとより考え方を深めることができる。 ○アイマスクあり,記録係は教室を出るときにじっくり作品を鑑賞するよう伝える。	【主学態】 ・作品や鑑賞に対して興味をもち,積極的に鑑賞活動・話し合い活動に参加できる。

(5)「思考・判断・表現」の評価基準

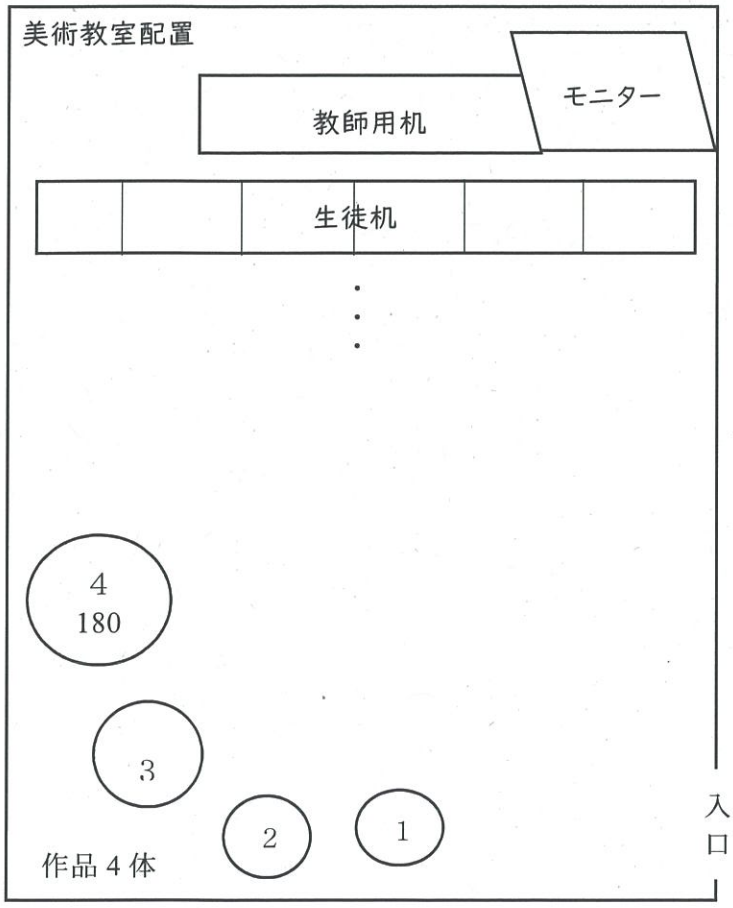
B	A
作品の特徴からワークシートに作品の造形的なよさに着目した根拠をもとに自分の意見を記入することができる。	作品の特徴からワークシートに作品の造形的なよさに着目した根拠をもとに自分の意見を記入することができ,作者の表現の意図と工夫などについて考え,見方や感じ方を深めることができる。

(6) 学習記録計画





10班(4人)
8班 (5人)2ペア+1人(記録、交替制、クロームブック、動画)
その場で5人グループをつくり、ペアを決めてもらう。
ペア



鑑賞『心でみて・触って・感じて・伝え合おう』

3年（　　）組（　　）番　なまえ（　　）　グループ番号（　　）

★鑑賞のポイント★

・触り心地　・温度　・質感

に注目して鑑賞しよう！

○実際に作品を触って…　※個人の意見はシャーペン，仲間の意見は色付きのボールペンで記入しよう。

・見つけたこと　※視覚情報…　あり　・　なし	・気が付いたこと
・考えたこと	・疑問に思ったこと

○振り返り…Google フォームに入力してください。→→→→